

評価結果公表票

作成日 平成21年3月31日

【評価実施概要】

事業所番号	0270102098
法人名	社会福祉法人 忠悠福祉会
事業所名	グループホーム せんじゅ園
所在地	青森県青森市篠田2丁目11-8 (電話)017-783-2887
評価機関名	社会福祉法人青森県社会福祉協議会
所在地	青森市中央三丁目20-30 県民福祉プラザ2階
訪問調査日	平成20年12月5日

【情報提供票より】(年 月 日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成17年4月14日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	8 人	常勤 6人, 非常勤 2人, 常勤換算	人

(2)建物概要

建物構造	木造垂鉛メッキ鋼板 造り
	2 階建ての 1 階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,000 円	その他の経費(月額)	光熱水費 7,500 円他
敷 金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	—
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり		1,200 円

(4)利用者の概要(月 日現在)

利用者人数	9 名	男性 1 名	女性 8 名
要介護1	0 名	要介護2	3 名
要介護3	2 名	要介護4	4 名
要介護5	0 名	要支援2	0 名
年齢	平均 84.4 歳	最低 68 歳	最高 96 歳

(5)協力医療機関

協力医療機関名	青森厚生病院 青森協立病院 青森クリニック たしろ歯科
---------	-----------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

法人理事長が、隣接した内科医院の医師であることが、入居者や家族の安心に結びついている。また、同法人のデイサービスや居宅介護サービス、訪問介護事業を活かしたサービスの連携が特徴である。
 ホームは街中に立地しており、買い物、通院、観光などの外出に便利であるほか、行事以外の時も町内会の方達が気軽に訪れている。
 虐待について内部・外部研修に参加し、全職員が理解している。また、虐待を未然に防ぐよう、日々のケアをチェックしている。虐待を発見した場合の対応方法や報告の流れ等の取り決めを作成しており、全職員が理解している。今年、国、県、市合同の現場視察が行われ、その際に示された改正マニュアルを今後取り入れる予定である。
 利用者の中には介護度の高い方が多く、常に利用者の気分や体調を確認し、リハビリや会話を中心に過ごしているほか、裁縫や絵画制作など、職員も教わりながら喜怒哀楽を共有している。
 居室には、箸や茶碗、コップ、枕、手押し車、遺影、神棚などの馴染みの物が持ち込まれている。また、職員は利用者と共に、一人ひとりの意向に合った居室作りを行っている。

【特に改善が求められる点】

同業者との交流や連携による職員育成の必要性を考え、交流の機会を設けることに期待したい。
 介護計画を作成する際、全職員の意見や気づきを基に、職員間で十分に話し合い、作成することに期待したい。また、介護計画の見直しに関して、6ヶ月毎の見直しの記録が無いのもあり、見直し時の記録の徹底に期待したい。
 夜間を想定した具体的な避難誘導策を作成することに期待したい。また災害発生時に備え、食料や水、寒さをしのげる物等を用意してはどうか。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>身体拘束防止の取り組みや、年間研修計画の作成など、前回の外部評価結果を受け、改善策について意見交換を行い、ホームの運営等に役立っている。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>運営者や管理者、職員は、評価のねらいや活用方法を理解している。自己評価は管理者が作成したものを基に、職員の意見等を取り入れて作成している。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>会議は3ヶ月に1度開催しており、ホームは日程調整等を行うなど、運営推進会議メンバーが積極的に参加できるよう取り組んでいる。会議ではホームの事業報告や、自己評価・外部評価結果を報告し、改善策について意見交換を行い、ホームの運営等に役立っている。</p>
	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部10, 11)</p> <p>利用者の暮らしぶりや職員の異動等を掲載したお便りを作成し、定期的に報告している。また、利用料納付の際に、ゆっくりと話し合える雰囲気を作り、健康状態等について報告している。金銭の支出は、ホームが立替え、領収書を添えて報告し、清算している。</p> <p>ホームの内・外部苦情受付窓口を掲載し、周知している。出された意見等は職員にも伝え、サービス改善に反映させている。</p>
重点項目③	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>町内会に加入しており、国道端花壇の水遣りや地域の盆踊り、敬老会に参加しているほか、日頃から近隣の方が気軽に立ち寄って貰えるような働きかけを行っている。</p> <p>また、認知症実践研修の実習生や、ボランティア等を受け入れており、キャラバンメイトの講習受講も計画している。外部の方を受け入れる際は、利用者のプライバシーに十分に配慮している。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>町内会に加入しており、国道端花壇の水遣りや地域の盆踊り、敬老会に参加しているほか、日頃から近隣の方が気軽に立ち寄って貰えるような働きかけを行っている。</p> <p>また、認知症実践研修の実習生や、ボランティア等を受け入れており、キャラバンメイトの講習受講も計画している。外部の方を受け入れる際は、利用者のプライバシーに十分に配慮している。</p>

【各領域の取組状況】

領域	取り組み状況
I 理念に基づく運営	<p>今年から地域密着を理念に取り込み「地域の中でゆったり、一緒に、楽しく、豊かに」として、サービスの向上に努めている。</p> <p>契約時は、自宅訪問を行い、契約内容、重要事項、関連事業等の説明を行い、同意を得ている。また、希望によりホーム見学もやっている。契約改訂時や退居の際は十分に説明を行い、同意を得ているほか、退居時には情報提供等の支援を行っている。</p> <p>今年度3人の退職・採用の大きな異動があったが、運営者は利用者にも与える影響を理解しており、十分に説明を行うなどの配慮を行うことで、ダメージを最小限にしている。また職務に関する引継ぎも詳細に行っている。</p>
II 安心と信頼に向けた関係作りと支援	<p>相談受付段階から、利用者の視点に立った支援を行っており、ホーム見学を行うなど、本人が安心して馴染めるように支援している。また、利用者や家族の意向に沿ったサービス開始になるよう調整している。</p> <p>利用者の中には介護度の高い方が多く、常に利用者の気分や体調を確認し、リハビリや会話を中心に過ごしているほか、裁縫や絵画制作など、職員が教わる場面もあり、喜怒哀楽を共有している。</p>
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	<p>これまでの受診状況を把握しており、かかりつけ医等、利用者や家族が希望する医療機関を受診できるよう支援している。定期的な受診のほか、体調変化時や心配ごとがある時は連携医療機関に相談できるほか、看護師による巡回時にも相談できる。受診結果等は、その都度電話等で報告しており、情報の共有が図られている。</p> <p>重度化や終末期の対応についての方針を明確にしており、利用者や家族から同意を得ている。また、利用者や家族、医療機関を交え、早い段階から話し合いを行い、意思統一を図っている。</p>
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	<p>入居者からの呼びかけには優先して対応し、希望や体調に配慮し、ゆったり・楽しい生活を目指し、柔軟な支援を行っている。</p> <p>利用者の生活歴や力量を把握しており、食事や洗濯物の片付け、掃除、小物の洗濯などホーム内の役割を担ってもらうほか、ホーム内でゆったり過ごしたり、レクリエーション等を計画するなど、気晴らしの支援も行っている。</p> <p>家庭的な調度品が配置されているほか、光量やテレビの音量、職員の立てる物音等は適量である。また、季節を感じるができる装飾等が施され、快適な空間となっている。</p>

評 価 報 告 書

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	管理者や職員は、地域密着型サービスの役割を良く理解しており、「地域の中でゆったり、一緒に、楽しく、豊かに」という事業所独自の理念を、全職員で話し合い作成している。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎朝の引き継ぎ時に、理念を唱和することで、全職員に周知している。また、理念を基に日々のサービス提供場面に反映させている。		
2. 地域との支えあい					
3	4	管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけあったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるよう努めている。事業所は地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。また、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。担当職員はキャラバンメイトになるなど、地域の認知症普及活動に参加している。	町内会に加入しており、国道端花壇の水遣りや地域の盆踊り、敬老会に参加しているほか、日頃から近隣の方が気軽に立ち寄って貰えるような働きかけを行っている。また、認知症実践研修の実習生や、ボランティア等を受け入れており、キャラバンメイトの講習受講も計画している。外部の方を受け入れる際は、利用者のプライバシーに十分に配慮している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	5	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	運営者や管理者、職員は、評価のねらいや活用方法を理解している。自己評価は管理者が作成したものを基に、職員の意見等を取り入れて作成している。また、前年度の外部評価結果を受け、より良いサービスに繋げるため、改善に努めている。		
5	6	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議は3ヶ月に1度開催しており、ホームは日程調整等を行うなど、運営推進会議メンバーが積極的に参加できるよう取り組んでいる。会議ではホームの事業報告や、自己評価・外部評価結果を報告し、改善策について意見交換を行い、ホームの運営等に役立てている。		
6	7	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、運営や現場の実情等を積極的に伝える機会を作り、考え方や運営の実態を共有しながら、直面している運営やサービスの課題解決に向けて協議し、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	パンフレットや自己評価、外部評価結果について、市の担当に持参し、報告している。また、市役所に近いこともあり、必要に応じて相談等を行うなど連携を図っている。		
7	8	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	内部・外部研修に参加し、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について、全職員が理解を深める取り組みを行っている。現在、制度利用者はいないが、必要に応じて情報提供等の支援をする準備が整っている。		
8	9	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	内部・外部研修に参加し、全職員が虐待について理解している。また、虐待を未然に防ぐよう、日々のケアをチェックしている。虐待を発見した場合の対応方法や報告の流れ等の取り決めを作成しており、全職員が理解している。今年、国、県、市合同の現場視察が行われ、その際に示された改正マニュアルを今後取り入れる予定である。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制					
9	10	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は、自宅訪問を行い、契約内容、重要事項、関連事業等の説明を行い、同意を得ている。また、希望によりホーム見学も行っている。契約改訂時や退居の際は十分に説明を行い、同意を得ているほか、退居時には情報提供等の支援を行っている。		
10	12	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	利用者の暮らしぶりや職員の異動等を掲載したお便りを作成し、定期的に報告している。また、健康状態や受診状況について、面会時に報告している。金銭の支出は、ホームが立替えし、利用料納付の際に領収書を添えて報告し、清算している。		
11	13	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	毎月、利用料納付の際に来所してもらい、面談室においてゆっくりと話し合える雰囲気を作っている。ホームの内・外部苦情受付窓口を掲載し、周知している。出された意見等は職員にも伝え、サービス改善に反映させている。		
12	16	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	今年度3人の退職・採用の大きな異動があったが、運営者は利用者にも与える影響を理解しており、十分に説明を行うなどの配慮を行うことで、ダメージを最小限にしている。また職務に関する引継ぎも詳細に行っている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
13	17	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	運営者は過去の研修参加状況を参考に年間計画を作成し、職員を積極的に外部研修に参加させている。受講後は報告書を作成し、職員会議開催時に周知している。また、職員の職務に関する助言を行うスーパーバイザーを確保している。		
14	18	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県、東青地区グループホーム協会、及び老人保健施設協会に加入しており、情報交換等を行っている。しかし、同業者との交流や連携を通じて、職員育成に繋げるまでには至っていない。	○	人員配置の困難さは推量できるが、同業者との交流や連携による職員育成の必要性を考え、機会を設けることに期待したい。
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15	23	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	相談受付段階から、利用者の視点に立った支援を行っており、ホーム見学を行うなど、本人が安心して馴染めるように支援している。また、利用者や家族の意向に沿ったサービス開始になるよう調整している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16	24	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者の中には介護度の高い方が多く、常に利用者の気分や体調を確認し、リハビリや会話を中心に過ごしているほか、裁縫や絵画制作など、職員が教わる場面もあり、喜怒哀楽を共有している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
17	30	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員全員で見守りの体制で業務を行っており、職員の気づき等を共有しているほか、必要に応じて、家族や関係機関からも情報収集を行っている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18	33	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護計画には、可能な限り利用者の意見を取り入れているほか、必要に応じて家族や関係者等の意見や気づきも反映させ、個別具体的なものとなっている。しかし、全職員の意見や気づきを基に、職員間で十分に話し合い、作成するまでには至っていない。	○	全職員の意見や気づきを基に、職員間で十分に話し合い、作成することに期待したい。
19	34	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画の見直しを6ヶ月または身体状況等の変化時にはその都度行うと明示している。しかし、見直し前の記録が添付されておらず、見直し箇所や改善点の経緯等を確認できない。	○	6ヶ月毎の見直しの記録が無いのもあり、見直し時の記録の徹底に期待したい。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
20	36	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	病院等の人的、物質的資源を有効に活用することで、利用者や家族に安心なサービスを柔軟な対応で提供している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
21	40	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	これまでの受診状況を把握しており、利用者や家族が希望する医療機関を受診できるよう支援している。定期的な受診のほか、体調変化時や心配ごとがある時は連携医療機関に相談できるほか、看護師による巡回時にも相談できる。受診結果等は、その都度電話等で報告しており、情報の共有が図られている。		
22	44	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化や終末期の対応についての方針を明確にしておき、利用者や家族から同意を得ている。また、利用者や家族、医療機関を交え、早い段階から話し合いを行い、意思統一を図っている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
23	47	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者の言動を否定することなく、声かけは基本的には「さん」付けで行っている。また、介助時は一人ひとりの羞恥心に配慮している。職員は個人情報保護法について理解を深めており、個人記録は事務室に保管している。		
24	49	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者からの呼びかけには優先して対応し、希望や体調に配慮し、ゆったり・楽しい生活を目指し、柔軟な支援を行っている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25	51	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、可能な場合は利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立は利用者の希望や好みに配慮されている。また、利用者は可能な限り食事の準備等の手伝いを行っている。職員は食事のサポートを行いながら、利用者と一緒に席に着き、共に会話を楽しみながら食事を摂っている。		
26	54	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は隔日を基本に行っているが、利用者の希望や好みに応じて、その都度対応している。また、職員は利用者の羞恥心や負担感を理解しており、入浴のサポートを行っているほか、入浴を拒否する方には場面を変えての働きかけを行うなどの工夫をしている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27	56	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者の生活歴や力量を把握しており、食事や洗濯物の片付け、掃除、小物の洗濯などホーム内の役割を担っている。また、ホーム内でゆったり過ごしたり、レクリエーション等を計画するなど、気晴らしの支援も行っている。		
28	58	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	散歩や通院など、日常的に外出する機会を設けているほか、季節に応じて観光や外食、お気に入りの喫茶店通い等、出来るだけ利用者の希望や習慣を取り入れた支援を行っている。また、利用者のその日の体調等に合わせ、臨機応変に対応している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(4)安心と安全を支える支援					
29	62	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	運営者や全職員は、身体拘束について理解しており、身体拘束を行わないケアを実践している。また、日頃の確認は繰り返し行われている。やむを得ず、身体拘束を行う場合の理由や方法、期間等の対応マニュアルが整備されている。		
30	63	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中、玄関等の利用者が日常的に出入りする場所は施錠していない。また、利用者の外出傾向を察知できるよう、見守りを行っており、察知した場合は、付き添う等の支援を行っている。やむを得ず施錠する場合は家族からの同意を得ている。無断外出時に備え、交番や近くの店、近隣住民からも協力が得られるよう働きかけている。		
31	68	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回、避難訓練を行っているが、夜間を想定した具体的な避難誘導策を作成していない。また、災害時に備え、非常時物品等を用意するまでには至っていない。	○	夜間を想定した具体的な避難誘導策を作成することに期待したい。また災害発生時に備え、食料や水、最低限の物品等を用意してはどうか。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
32	74	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立は栄養バランスに配慮されており、概ね1300kcalとしている。また、一日の水分摂取量を概ね把握している。献立や栄養摂取状況について、栄養士から指導や助言を得られる体制が整っている。		
33	75	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症の対応マニュアルが作成されており、必要に応じて見直しを行っている。また、マニュアルに基づいた学習の機会を設けているほか、保健所等との連携を図り、情報収集に努めている。感染症に関する情報等は利用者や家族にも周知している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
		○居心地のよい共用空間づくり			
34	78	共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	家庭的な調度品が配置されているほか、光量やテレビの音量、職員の立てる物音等は適量である。また、季節を感じることができる装飾等が施され、快適な空間となっている。		
		○居心地よく過ごせる居室の配慮			
35	80	居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	箸や茶碗、コップ、枕、手押し車、遺影、神棚などの馴染みの物が持ち込まれており、職員は利用者と共に、一人ひとりの意向に合った居室作りを行っている。		

※ は、重点項目。